教育研究実践報告誌
2020.3 第3巻第 1-2 号(合併号) pp.27-34

生徒指導とキャリア教育の充実を目指した授業の在り方の考察

―融合的視点による実践事例を通して―

川上　知子

要旨：生徒指導とキャリア教育，双方の充実が小中学校の双方の学習指導要領解説総則編に改定と共に明文化された。多忙を極めている多くの学校現場において，それぞれの視点で充実を図ることは容易ではない。また，これまでの生徒指導において多くの学校で，学校行事や長期休みの前に行う第二次支援の「予防的な指導」と問題行動の後の第三次支援の「課題解決的な指導」との二本柱で生徒指導が行われている傾向にあることが推測される。そこで本稿では，第一次支援とされる「開発的生徒指導」の意識的実践に着目した。この開発的生徒指導の視点と隣接領域に位置するキャリア教育が意識化された教育の中で「両輪」として機能していくことが互いの充実を生み出す上で最も望ましい形だと考えた。これらのことを踏まえ,「生徒指導」と「キャリア教育」の融合的視点によって授業を開発した具体的実践事例を通して,双方の充実を目指した授業の在り方について検討を行った。

キーワード：開発的生徒指導，キャリア教育との融合的視点，双方の充実，学級活動

１．問題と目的

学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編では，小学校，中学校ともに「生徒指導の充実」「キャリア教育の充実」の項が明示された。これら２つは，子どもたちの、たくましく「自分」を生き抜く力を育む土台となる教育領域だと考えている。

「平成 30 年度生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」(令和元年 10 月 17 日)によると，小・中・高等学校における学校の管理下・管理下以外における暴力行為の発生件数は 72,940 件(前年度 63,325 件)，また，小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は 543,933 件(前年度比 414,378 件)といずれも増加傾向にある。さらに，小・中・高等学校（学校から報告のあった）における自殺した児童・生徒数は 332 人(前年度 250 人)であり，この数は，昭和 49 年から現在までの調査において過去最多の結果となっている。さらに，その自殺の背景をつかむ手がかりとなる項目「自殺した生徒が置かれていた状況」についての調査結果で一番多くを占めるのは「不明」の 58.4%である。当事者がどんな状況で「自死」を選択することになったのか，誰もわからないという，一番切実で悲しみ極まりない現実がまぎれもなく教育界に存在している。この結果は，倫理的配慮の観点からみても，大きくかつ具体的に取り扱われることが難しいことは自明であるが,しっかりと向き合っていくべき大きな教育的課題であり，生徒指導・キャリア教育が担うべき課題であると考える。

このような現状を踏まえ，学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編において，小学校，中学校ともに「生徒指導の充実」「キャリア教育の充実」がそれぞれ新たに明文化されたともいえよう。そして，たくましく自分を生き抜く力を子どもたちに育むために，生徒指導とキャリア教育が意識化された教育の中で「両輪」として機能していくことが最も望

ましい形だと考える。そこで，本研究は,「生徒指導」と「キャリア教育」の融合的視点において小学校 3 年生を対象とした授業開発を具体的事例として取りあげ，双方の充実を目指した教育実践について検討することを目的とする。

２．生徒指導の充実を目指して

(1)児童・生徒理解の深化

これまで，大きな項目としていくつかの調査結果を挙げたが，ミクロの視点で，一つの暴力行為について考察するとその背景には様々な要因が絡み合っており，非常に多様化しているといえよう。例えば，筆者自身が中学校の教員をしていた頃の 1 つの事例を挙げると，単に「荒れた状態」をとっても，核となる生徒の背景には,「発達障がい」の二次障がい的要因や家庭的要因から「愛着障がい」が根底に潜んでいるなど，起こした事象への責任の多くは当然本人にあるが，本人にもどうにもできない要因が潜んでいることが少なくなかった。小学校，中学校ともに学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編で,「生徒指導を進めていく上で，その基盤となるのは生徒（児童）一人一人についての生徒（児童）理解の深化を図ることである」とし，その理解においては「生徒（児童）を多面的・総合的に理解していくことが重要である」と明記されている。まさに，問題行動が見られた際，個性の伸長を促す対応につなげるための見極めが存在し，児童・生徒を多面的・総合的に理解することがとても重要となる。生徒指導が充実したものになるかどうかの大きな分岐を意図するといえよう。

(2)開発的生徒指導の視点への意識化

児童・生徒を理解するにあたり，生徒の背景にどこまで歩み寄り，理解を深めていくのかは，学校教育という枠組みの中で，各教員に委ねられているのが現状であろう。そして学校教育の現場は，数値には計上されない日々の対応が重なり，向き合うべき生徒への対応は校内だけでなく，保護者や関係機関との連携も含まれ，非常に多様化しているといえる。しかしながら，その正しい生徒理解に基づく教育実践は，問題が起きた時に行う対処的な取り組みにとどまってはならない。

文部科学省(2010)の生徒指導提要において，集団指導と個別指導を行う原理として次の３つ,「成長を促す指導（第一次支援)」「予防的な指導（第二次支援)」「課題解決的な指導（第三次支援）の必要性を示している。しかしながら，多忙を極めている多くの学校現場において，問題行動の後の「課題解決的な指導」と学校行事や長期休みの前に行う「予防的な指導」の二本柱で生徒指導が行われてはいないだろうか。そして生徒指導としてという意識が低いままに，第一次支援である「成長を促す指導」を直感的に行っているのではないかと推測される。この第一次支援の「成長を促す指導」が「開発的生徒指導」と称され実践が試みられており（池島・松山，2014)，八並（2008）は,「開発的生徒指導」を,「すべての子どもを対象とした問題行動の予防や，子どもの個性・自尊感情・社会的スキルの伸長に力点を置いたプロアクティブな（育てる）生徒指導である」と述べている。この第一次支援とされる「開発的生徒指導」を意識した教育実践を充実させることで，すでに高い意識で行われている第二次支援と第三次支援がより良い形で繋がり，生徒指導の充実が具現化されていくと考える。

３．キャリア教育の充実を目指した本研究の実践的位置づけ

「生徒指導提要」（文部科学省，2010）では，生徒指導と進路指導の位置づけについて以下のように述べられている。「進路指導がキャリア教育の推進の中に位置づけられ，キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導が系統的に展開され，幅広い能力の形成を目指している」としたうえで，その進路指導と「生徒の社会生活における必要な資質や能力をはぐくむという生徒指導は,人格の形成に係る究極的な目的において共通しており，個別具体的な進路指導としての取組は，生徒指導面における大きな役割を果たすなど，密接な関係にあるとした。

CiNii による簡易的検索結果では，生徒指導とキャリア教育の 2 つのテーマを柱にした具体的教育実践（廣岡，2019）や２つの位置づけを整理したもの（藤田，2012),「多面的理解による生徒指導・自尊感情を高めるキャリア教育」をテーマに２つの領域の特性を心理的側面も踏まえて理論的に整理したもの（古屋，2019）などが散見される。しかし，この隣接領域にある生徒指導とキャリア教育が積極的な意識のもの融合的に実践がなされているかは疑問である。その理由として，学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編「キャリア教育の充実」でいくつか指摘がなされており，小中学校ともにキャリア教育に対する理解が漠然としているという課題があると考える。キャリア教育の定義について中央教育審議会答申（2011 年）は,「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」と整理している。しかしながら，この定義自体が，難しい概念「キャリア発達」を含むため，学校現場に浸透しづらいのではないかと考える。そこで，本研究では，同じく中央教育審議会答申（2011 年）で示されたキャリア教育の視点としての「基礎的・汎用的能力」の 4 つの能力（人間関係形成・社会形成能力，自己理解・自己管理能力，課題対応能力，キャリアプランニング能力）を育むことで，たくましく「自分」を生き抜く力をつけていく教育が「キャリア教育」であると整理したい。

これらのことから「生徒指導」と「キャリア教育」は互いに補完し合う関係性にあると考えに基づき，開発的生徒指導の視点とキャリア教育の視点を融合した授業開発を**図３**の位置づけを意識し試みることで，生徒指導とキャリア教育が両輪として機能する中で，双方の充実を目指した授業の在り方について検討を深めたい。

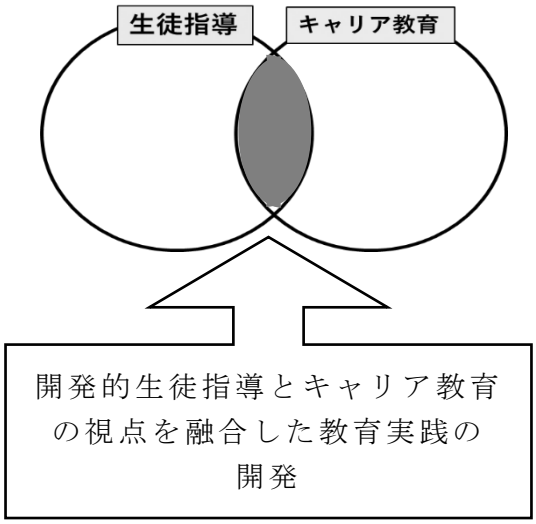

図３　本研究における実践的位置づけ

４．開発的生徒指導とキャリア教育の融合的視点における授業開発と学習指導案

1 つの事例として，筆者が小学校３年生を対象に授業開発を行った流れを示すこととする。小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編で，特別活動が学校教育全体で行うキャリア教育の要と役割を担うこと，そして，小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説

特別活動編においても，学級活動の内容（3）に「一人一人のキャリア形成と自己実現」と明記されている。さらに，学級活動の内容（2）に「日常の生活や学習の適応と自己の成長及び健康安全」とあり，これはまさに生徒指導の視点，つまり開発的生徒指導の視点と捉えることができる。これらのことを踏まえ，開発的生徒指導とキャリア教育の融合的視点を意識した１時間の学級活動の授業開発を行うこととした。

(1)実態把握【生徒指導の基盤＝児童理解】: 今回は筆者が大学の教員として小学校に赴き授業を行うため，担任からのインタビューから生徒指導の視点による学級の様子と子どもたちへのキャリア教育アンケートの結果から個と集団の実態を傾向として把握し，さらに，小学校３年生という一般的な発達段階の特性を加味し，実態把握を行い，その内容を担任へフィードバックし，確認を行うことで児童理解の深化に努めた。

(2)題材の考案 :「心と心であくしゅ」（自作教材）※以下の内容を柱とする

【キャリア教育の視点】

学級活動（３）（ア）「現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成」

【開発的生徒指導の視点】

学級活動（２）イ「よりよい人間関係の形成」

※本題材は，キャリア教育の視点，基礎的・汎用的能力の１つ「人間関係形成・社会形成能力」と開発的生徒指導の視点としての「よりよい人間関係の形成」がほぼ同義であるため、キャリア教育の視点を土台に題材を考案している。

(3)　題材設定の理由　※小学校キャリア教育の手引き（2010）を参考資料として使用

本題材「心と心であくしゅ」は，児童たちに互いを理解し合うことについて考えたりその良さを感じたりする内容である。発達段階的視点では、自分の世界観から抜け出し、他者意識が高まってくる時期であり、不必要に人と比べて自信をなくし、劣等感が芽生えてくる時期でもある。キャリア教育の視点（基礎的・汎用的能力を構成する４つの能力）を踏まえた授業実践を通して，小学校段階から，今の自分と将来とのつながりを意識させる機会をもつことで、進路の探索・選択にかかる基盤形成を促していきたい。そこで４つの能力の１つ、「人間関係形成・社会形成能力」を柱に、本学級の児童の発達段階と実態を踏まえた授業実践を開発し、多様な考え方や感じ方を知り、互いに理解し合う態度や相手の立場を踏まえた自己表現の在り方について考え、その良さを感じる場を設定したい。また、「自分らしい人生をつくり、たくましく生きるために必要な４つの力」として、①つながる力（人間関係形成・社会形成能力），②自分力（自己理解・自己管理能力），③アイディア力（課題対応能力），④未来力（キャリアプランニング能力）と呼ぶことを子ども達に定義し，今の自分が未来をつくっていることを意識させたい。そこで，本時では、実在する身近な人物の失敗から学んだ経験について考えることで、他者理解の態度を育み、相手に正しく素直な気持ちを伝えることのよさを感じさせたい。また、今の自分自身の他者との関わりについて振り返り、自分について考える場を設定したい。本授業は,開発的生徒指導の視点を意識し,普段の生活場面を想起させ，子どもたちが自分ごととしてつなげられるよう，授業者の小学校３年時の実話に基づく資料を作成し，子どもたちの切実感を高める１つの手立てとした。

生徒指導とキャリア教育の充実を目指した授業の在り方の考察
―融合的視点による実践事例を通して―

(4)本時の指導と児童の活動　※キャリア教育の視点→キャ　生徒指導の視点→開生

●本時の目標

実在する人物の失敗から学んだ経験について考えることで

① 他者の立場になって気持ちを想像することができる。
（キャ：人間関係形成・社会形成能力）開生（よりよい人間関係の形成）

② 相手に正しく気持ちを伝えることの良さを感じることができる。
（キャ：人間関係形成・社会形成能力）開生（よりよい人間関係の形成）

③ 自分を振り返り、他者との関わり方について考えることができる。
（キャ：自己理解・自己管理能力）開生（よりよい人間関係の形成）

●学習過程

(時間) 形態	学　習　活　動	教　師　の　支　援 （☆キャリア教育の視点　○開発的生徒指導の視点）
(5) 一斉	1　自分らしくたくましく生きていくために必要な４つの力を知る。	・たくましく生きることを具体的にイメージできるように観葉植物を具体例として示す。 ・４つの能力を示したプリントを渡し、いつでも確認できるようにする。
	今日、みんなに出会わせたい人を紹介します！	
(5) ペア G	2　実在する人物の経験①について考える。 （１）「心が真っ黒だった」ともこさんの気持ちを想像する。 ・悲しい　・嫌な気持ち　・さみしい ・怒っている　・さみしい　・つらい	・教師の実際の経験を示すことで、課題への関心を高める。 ・パワーポイントで真っ黒なスライドを示すことで具体的なイメージを促し、多様な感じ方を引き出す。 **☆人間関係形成・社会形成能力（他者の個性を理解する力）** **○よりよい人間関係の形成**
(10) 一斉 個	（２）ともこさんの心が真っ黒になった出来事について知る。 （３）ともこさんの気持ちについて考える。 ・悲しい　・不安　・学校に行きたく	・小学校３年生時の教師の実話をパワーポイント資料で示すことで具体的なイメージを促し、多様な感じ方を引き出す。
(13) 個 ペア G	3　実在する人物の経験②について考える。 （１）ともこさんの経験②について知る。 （２）ワークシートに書く。	・経験②（失敗経験）が今の授業者につながっていることを伝え，経験②への関心を高める。 **☆キャリアプランニング能力（行動と改善）**

	・友達が嫌がっていることをしちゃだめだよ。ちゃんと謝ってね。	
	（３）ともこさんがとった行動から，互いに素直な気持ちで正しく伝えあうことでやさしい気持ちになることを知る。	・真っ黒だった心が、温かい気持ちになったことを体感させるためにパワーポイントを活用する。 ・「心と心であくしゅする」意味を押さえる。
	どんな言葉で気持ちを伝え合えば「心と心であくしゅ」できるでしょうか。	
(12) 一斉 個	4　経験①の場面で伝え合う言葉について考える。 （１）①の場面で互いの気持ちを伝えていないことに気付く。 （２）　伝え合う言葉をワークシートに書く	**☆課題対応能力** ・全体で①の場面では，まだ心が真っ黒であることにスライドで振り返り着目させる。 ・自分の考えをもって話し合いに参加できるように，個人思考の時間を確保する。
	（２）ペア、G、全体で共有する。	**○よりよい人間関係の形成** ※自分の考えを伝えることができているか観察。 **☆人間関係形成・社会形成能力（他者に働きかける力）**
	5　本時の振り返りをする。 考えたこと伝えたいことをワークシートに書き、自分を振り返る。	※小集団思考 **☆自己理解・自己管理能力（前向きに考える力）** ※時間があれば、数名発表、全体思考

●　評価

・実在する人物の経験を通して、他者の気持ちになって考えることができたか。
（発表、ワークシート）

・互いの気持ちを正しく伝え合うことの良さを関ることができたか。
（発表、ワークシート）

・自分の他者との関わりについて振り返ることができたか。（発表、ワークシート）

５．成果と課題

学生に「生徒指導」のイメージを尋ねると，その答えから，彼らが経験してきた生徒指が問題行動の予防と対処のための生徒指導に重きを置かれていたことが推測される。そして当の筆者自身も，理論的な理解が伴い，生徒指導への見方が整理されたことをきっかけに，開発的生徒指導の視点への意識が強化されたのはつい最近である。だからこそ，生徒指導の充実を目指して，これから教師を目指す学生と共に切磋琢磨していきたいと考えて

いる。今回，生徒指導，キャリア教育の充実を目指した授業の在り方を実際に開発することで検討したが，双方の融合的視点で授業を提案できたことは大きな一歩であったと考える。生徒指導もキャリア教育も学校の教育活動全体で意識して実践されることが望まれているが，多忙感極まりない学校現場において，一つ一つの視点で実践を重ねていくことには限界がある。今回「生徒指導」と「キャリア教育」という隣接領域の２つがゆえに融合的視点で授業を開発し，その授業を出発点として，その授業で考えたこと向き合った自分を，子どもたちの日常にどれだけ意識化できるかが一つの鍵となるが，このように融合的視点で授業を開発することは，教師自身がその領域への理解を深めるだけではなく，子どもたちへの願いを題材の中に，実態に応じて潜ませることができるという良さもあると考える。

一方，課題としては、まずは，開発的生徒指導の理論的整理を行う必要性があるということである。授業開発を行う上で，キャリア教育の視点が，明確に整理されていたことで，実践への変換のしやすさを感じられたが，開発的生徒指導がどのような理論の上に成立している概念なのか明確でないため，開発した授業がキャリア教育に偏りのあるものになっ印象が否めない。当然，題材の内容にもよるが，まずはわずかながらに散見される開発的生徒指導の先行研究を総括し，課題と成果を整理した上で，本研究の「開発的生徒指導」と「キャリア教育」の融合的視点を提案すべきであった。

また，本来は融合的視点を踏まえた授業開発が生徒指導とキャリア教育の充実につながったのか否かをしっかりと検証する必要がある。そのためには，何をもって「充実」とするのかという指標が必要であり，前述した内容と重なるが，生徒指導，キャリア教育の充実という視点における理論的研究が必要であると考える。

そして，実践的課題ではあるが，やはり学級活動は，普段を知る担任が行うからこそ，教育的効果が高く，授業から普段の生活へつなげ，普段の生活から児童・生徒理解の深化や授業開発,子どもたちへの声かけにつながるというふうに,循環することが可能となる。ただ，その点をしっかりと自覚できたこと自体には価値を見出している。

今後の方針としては，隣接領域にある「生徒指導」と「キャリア教育」の融合的視点とは何かについて理論的整理を深め，系統的な授業開発を重ねていきたい。

【引用・参考文献】

中央教育審議会答申(2011). 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf （最終閲覧日：2020 年 2 月 27 日）

藤田 晃之(2012). 生徒指導とキャリア教育との関係を整理する ： 一石二鳥の実践を目指そう (特集 子どもたちに"チャレンジ"と"行動"を キャリア教育、再考), 月刊生徒指導 42(8), 18-21.

古屋 喜美代(2019). 多面的理解による生徒指導・自尊感情を高めるキャリア教育 神奈川大学心理・教育研究論集,45, 291-304.

廣岡 千絵(2019). 新しい教育課程と生徒指導上の諸課題等への対応(2)新学習指導要領と生徒指導・キャリア教育 ： 開発的な生徒指導の実践事例 月刊生徒指導 ,49(6),

66-69.
池島 徳大・松山 康成(2014). 学級における規範意識向上を目指した取り組みとその検討―“PBIS プログラム”を活用した開発的生徒指導実践 ，奈良教育大学学校教育実践研究，6，21－29.
文部科学省(2010). 生徒指導提要 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm（最終閲覧日：2020 年 2 月 28 日）
文部科学省(2018). 小学校学習指導要領解説 総則編 東洋館出版社，99－102.
文部科学省(2018). 小学校学習指導要領解説 特別活動編 東洋館出版社，43-62.
文部科学省(2010). 小学校キャリア教育の手引き 教育出版
文部科学省(2018). 中学校学習指導要領解説 総則編 東山書房，97-101.
文部科学省(2019). 平成 30 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について https://www.mext.go.jp/content/1410392.pdf（最終閲覧：2020 年 2 月 28 日）
八並光俊，國分康孝 編(2008). 新生徒指導ガイドー開発・予防・解決的な教育モデルによる発達援助ー，図書文化